

## 読者ひろば

### 高校生が企画 戦争展に感心

高谷和生<sup>68</sup>

〓市民団体代表

(玉名市)

特別パネル展「つなぐ  
高校生と松橋空襲」が、  
宇城市豊野町の市立郷土  
資料館で始まった。県内  
では、学校外での「高校  
生による企画展」は初め  
てのことでもあり、早  
速見学に出かけた。

テーマである「松橋空  
襲」は、敗戦間際の昭和  
20年7〜8月、沖繩移駐  
の米陸軍極東航空軍によ  
る熊本の中小的町などを  
対象とした空襲の一つで  
ある。

熊本で「空襲」という  
と、被害の大きさから7  
月1日深夜のB29による  
市街地を狙った1回目の  
熊本大空襲が挙げられ

る。ただ、九州地方空襲  
の理解においては、この  
松橋空襲のように、九州  
上陸のための米軍オリン  
ピック作戦に向けた、交  
通インフラや拠点地域へ  
の空襲実態の調査は欠か  
せない。

展示では地元の松橋高  
校生3人が調べた空襲の  
全容や地元の証言などが  
コンパクトにまとめら  
れ、パネルで展示されて  
いた。また、当時の新証  
言のほか、現存の防空壕  
などの戦争遺跡について  
も、自らの足で調べた成  
果が報告されていた。私  
が高校時代に作り組んだ  
「玉高考古学部」文化祭  
展示を思い出し、思わず  
心が温かくなった。

熊本での高校生による  
地域の平和活動は、平和  
大使や核廃絶署名運動が  
活発である。だが、自分  
たちが住む地域に着目し  
て独自に調査し、その成  
果を地域で発表して啓発  
する機会や活動はまれで  
ある。

今回このように地元高  
校生の平和希求活動を後  
押しされた宇城市に敬意  
を表したい。来たるべき  
「戦後80年」の節目に向  
け、私たちが地域と連携  
して「未来へつなぐ」  
高校生への調査支援を引  
き続き進めたい。頑張れ、  
松高生！